

2022年度 自己評価 結果及び対策・改善報告書

評価項目	評価結果 及び 対策	改善結果（進捗状況）
I、環境・体制整備	<p>利用スペースについては、グループ毎の人数によって、活動場所を変える等、安全面に配慮して使用している。</p> <p>また、行事においては、人数規模に応じた会場の設定をした事や開催時間をずらす等環境設定に配慮を行った。</p> <p>職員に配置については、各クラス・事業所間で協力体制を整えている為、非常時でも対応が可能となった。</p>	<p>来年度の利用スペースについて現在各クラスで安心安全の維持ができるよう検討を行い、引き続き適切な環境を提供していく。</p> <p>行事に関しては、参加人数を踏まえた上での会場設定や時間を分散する等の対策を行い、多くの方に参加頂く事ができた。</p>
II、業務改善	<p>今年度から専門性の向上を目的に、施設内勉強会を実施し、職員の資質向上に努めた。</p> <p>また、定期的に事業所内で職員同士の話し合いの場を設け業務内容の精査、必要であれば業務改善を行っている。</p> <p>事業計画について、保護者向けアンケートでいただいたご意見を参考に反映させていただいている。</p>	<p>施設内の勉強会は引き続き実施できている。今後は外部研修の機会を増やし、得た知識、内容について、事業所内で共有し実践していきたい。</p> <p>業務内容については職場会議にて進捗状況の報告を行い、精査をしていくとともに、ICTを活用する事で業務効率化が図れるように検討を進めていく。</p>
III、適切な支援の提供	<p>定期的にカンファレンスを実施している。保護者に聞き取りした内容や日々の様子を職場内で共有し、専門的なアセスメントツールを活用して分析を行い、児童の現状・特性に適した支援計画を立案している。</p> <p>また、スモールステップで積み上がりの療育ができるように、職場内の会議で4領域及びSSTの活動内容を共有、振り返りを行い、次回の療育に改善、向上が図れるように努めている。</p> <p>今年度は、SST活動で電子黒板やタブレット端末を使用し、ダンスの活動を電子黒板で手本の動画を映す等、ICTを多く取り入れる事で、視覚支援に繋がったことや、意欲向上に繋がった。</p>	<p>カンファレンスについては専門的なアセスメントツールを使用し、職場内で情報共有を継続して行っていく。</p> <p>療育内容については会議、申し送り等を通して引き続き共有、振り返り、立案をして今後も向上に努めていきたい。</p> <p>ICTを活用した、タブレット端末でのアプリ使用や、コミュニケーション支援ツールの1つと考え活用を継続する。</p>

<p>IV、関係機関や保護者との連携</p>	<p>相談支援事業所や学校等と必要に応じてサービス担当者会議に参加する事や送迎時に先生と情報交換をする等、情報共有し連携を深めた。</p> <p>また、理学療法士による運動活動を実施し、運動機能の向上を図っている。</p> <p>保護者との連携においては座談会を開き意見交換を行うなど、送迎時に日々の療育報告を実施した。</p>	<p>サービス担当者会議で支援方法を共有する事を通して、学校や関係機関に対してはなえみの活動を知る機会を作ることができた。</p> <p>訪問看護ステーション富丘の理学療法士による体操講座は、専門的な観点から子どもの好きな動きを取り入れることで、子どもの積極的な運動参加に繋がっている為、今後も継続して実施していきたい。</p> <p>座談会については、実施後のアンケートにて希望を確認し、希望に沿う形で開催できるよう進めていく。</p>
<p>V、保護者への説明責任等</p>	<p>個別支援計画の説明は、6か月に一度、保護者と評価面談を行いはなえみでの支援について説明、同意を得た。</p> <p>年間行事やクラスの方針について4月・10月に事業所説明会を実施し説明を行った。契約時には、契約書、重要事項説明書の内容について説明を行い、契約内容等に変更点があった時の説明も随時行ってきた。</p> <p>活動内容については日々の療育報告の他にお便りを配布し、行事の内容や写真で活動の様子を知って頂けるよう心掛けた。</p>	<p>今後も事業所説明会で活動の振り返りを行い、活動の具体的なイメージが持てるよう努めていく。今年度途中から施設内での引き渡しが開けたため、施設内に掲示している活動紹介等で、はなえみの活動について深く知って頂けるよう掲示物の充実を図りたい。</p>
<p>VI、非常時等の対応</p>	<p>毎月、様々な状況を想定した訓練を計画的に実施した。訓練後には、訓練内容の振り返りを行い、次回の訓練への改善へ繋げている。</p> <p>しかし、訓練の内容については保護者の方へは周知不足であった。</p> <p>身体拘束や虐待防止、権利擁護の観点では、職場会議やその他会議等で、身体拘束、虐待事例に当たる事象がないかの報告を実施し、委員会内だけでなく、事業所内の強化を図った。</p>	<p>防災訓練の様子は、お便りにも一部様子を記載し、保護者の方へ伝わるよう工夫していく。また、事業所説明会や保護者会等でも伝えていくことで更に訓練内容の周知が図れるよう対応していく。</p> <p>感染時の対応訓練を実施。次年度以降も様々な非常時対応ができるよう心掛けていく。</p>

(まとめ)

今年度は感染予防に留意し、クッキングや、対面での座談会の実施など、出来ることを模索し、色々なことを再開できた1年でした。活動を進める中では、保護者様のご理解とご協力があり、色々な体験活動が行え、子どもたちが、1年を通してはなえみに通えることができたこと、感謝申し上げます。

はなえみ磐田では、新たに電子黒板やタブレットを使用するなど、個別支援の充実と支援ツールの拡大に努めてきました。これからも、はなえみ磐田では、子どもたちの「挑戦する気持ち」を大切にし、様々な体験活動を通して成長できるよう努めて参りたいと思います。